

## ハンガリー幼児保育園教育基本プログラム（2009年改定版）

### 1、 導入

- 1、 基本プログラムは—我が国の幼児保育教育史の価値、国の特徴、教育学と心理学の研究成果、国際的にも評価されている教育実践、人権と基本的自由、そして、児童憲章に基づいた義務を念頭に—ハンガリー幼児保育園で行われる教育の基本を決定します。

幼児保育基本プログラムの解釈は、以下を出発点とします。

- a、 保育園教育は、子どもの人格の発達と人権、そして基本的自由を尊重することを目的とします。
- b、 子ども—発達過程にある人格—は特別な養護と保護を必要とします。
- c、 子どもの教育は、第一に家庭の権利であり、義務でもあります。保育園の役割は補佐的なものです。

基本プログラムを元に、保育園教育の中では様々な(新しいものも含まれる)教育の試みが可能です。なぜなら、基本プログラムは、保育士の教育者としての視点や、広範囲における方法論の自由を保障し、子どもを守る点において拘束性が発揮されます。

保育園は、各園で制作した教育プログラムを元に保育をします(ただし、要点は国の基本プログラムと調和のとれたものであること)。保育園は、園独自のプログラムを作成するか、もしくは、国で選択された既製のプログラムを使うこともできます。国の幼児教育プログラムと園の基本プログラムの、相互的に構築された専門的にも調和のとれた仕組みにより、各園の専門的な自主性と保育園の多彩さが保障され、社会が保育園教育に対して要求する子どもに関する厳守項目を守ることができます。

- 2、 園の保育園教育プログラムを作るにあたり、国の教育プログラムと共に、以下の事柄にも注意を払う必要があります。
  - a、 もし、保育園が民族教育、もしくは、少数民族教育を行う場合、民族保育園 もしくは、少数民族保育教育の指針を念頭におきます。
  - b、 もし、保育園が独自の働きかけの必要な子どもの教育を行う場合、“独自の働きかけの必要な子どもの教育指針“を念頭におきます。

## 2、子ども像・保育園像

### 子ども像

- 1、基本プログラムは、子どもの人格、つまり、子どもは独自のかけがえのない存在であり、同時に、社会的存在であるという事実から出発しています。
- 2、基本プログラムは、子ども像を描くにあたり、様々な教育学と心理学に共通する方針を基本にしています。それらによると、子どもは発達し続ける人格であり、発達は遺伝的な要素や、成熟の独自の原則、自発的もしくは計画的に適応した環境からの影響、それらすべてにより決定します。これらの要因の影響の結果、子どもには、独自の、年齢ごとの、そして、個々によっても違った身体的、精神的な欲求があります。保育園教育は子どもを中心とし、受容し、子どもの人格の発達を目指します。全ての子どもにその可能性を保障し、ステレオタイプ的な性の役割の強調を意識的に避け、社会における性の不平等に関する先入観を崩すことを助けます。

### 幼児保育園像

- 1、幼児保育園は、公共教育機関の中でも独立した施設であり、子どもが三歳から小学校に上がるまでの家庭教育を補います。幼児保育園には、保護し、社会的であり、教育し、人格を発達させる役割があります。
- 2、幼児保育園教育の目的は、年齢と個々の特徴、そして、それぞれの発達テンポを尊重しながら、多面的でハーモニーある発達と、子どもの人格の発達を助けることにあります(独自の働きかけの必要な子どもへの関わりもここに含まれます)。
- 3、保育園教育の基本原則
  - a、子どもの人格を尊重し、受け入れ、愛情と尊重を基調とします。
  - b、教育は、子どもたちの人格の発達と子どもたち個々の才能や能力を開花させ、それを、援助します。
  - c、保育園教育での教育は、子どもの人格に合わせます。
- 4、基本原則を守るために、以下のことに配慮します。
  - ・ 子どもが本能的欲求を満たされ、情緒的な安心を感じられる明るく、愛情豊かな保育園環境を生み出すことにおいて。
  - ・ 身体的、社会的、知的能力の、個々、そして、年齢的な特徴の形成において。
  - ・ 子ども集団でおこなえる多彩な活動(年齢と発達にふさわしい)や、特に、他では補うことのできない“遊び”の保証において。
  - ・ これらの活動を通して、年齢にあった教養内容の提供において。
  - ・ 子どもたちの健康的な発達とそれに必要な人的、物的環境において。

- 5、他民族、少数民族に所属する子どもたち、そして、移民の子どもたちの保育園での教育は、少数民族のアイデンティティを守り、ケアし、強化し、伝承させ、言葉の教育や他国籍文化教育を基礎とした社会への参加の可能性を保証しなければなりません。
- 6、移民の子どもたちの保育園での教育では、自己同化の維持、ケア、強化、インターカルチャー教育を元にした社会への参加の可能性と人権と基本的自由の保護を保証しなければなりません。

### 3、幼児保育園教育の課題

#### 幼児保育園教育の一般的な課題

幼児保育園教育の課題は、幼児期の子どもの身体的、精神的欲求を満たすことにあります。それらの中でも：

- 健康的な生活方法を身につけさせます。
- 情緒教育や社会化を保障します。
- 母国語、知的発達に働きかけ、教育を行います。

#### 健康的な生活方法の形成

健康的な生活に向けての教育は、“健康的に生活したい”という欲求を形成することで、幼児期においては特に重要です。幼児保育園教育の課題は子どもの身体発達を助けることにあります。それらの中でも：

- ・ 子どもの育児、身体的欲求、運動欲求を満たします。
- ・ ハーモニーがあり、調整のとれた運動発達を助けます。
- ・ 子どもの身体能力の発達を助けます。
- ・ 子どもの健康を保護し、鍛錬し、維持します。
- ・ 健康的な生活方法、身体ケア、食事や着替え、病気の予防、健康を守るための習慣を形成します。
- ・ 子どもの発達に必要な健康で安全な環境を保障します。
- ・ 必要であれば、ふさわしい専門家の助けを得ながら（保護者や保育士と協働しながら）、特別な育児や働きかけ、矯正、身体的・精神的な教育の課題を行う。

#### 情緒教育と社会化の保障

- 1、 幼児保育園児の特徴は、情緒が振る舞いを導くことにあります。この年齢では人格の中でも情緒面が強いことから、保育園が子どもたちにとって情緒的な安心を得られ、家庭的で、明るく、安定し、愛情に満ちた雰囲気をもっていることは欠かせません。
  - ・ 子どもが、保育園入園時から保育園に対して良い感情を持てるようにします。
  - ・ 保育士と子ども、子どもと助手、子どもと子どもの関係にはポジティブな感情が特徴であるようにします。
  - ・ 保育園は、子どもの社会的感受性の発達、自己表現による自己形成にも場所を提供します
  - ・ 保育園は、仲間関係の欲求を満たすための可能性を提供します。子どもたちが、違いを受け入れ、尊重するように教育します。
- 2、 社会性の視点からも特に重要なのが、共通の体験をもとにした共同の活動です。ですから、子どもの道徳的性質(例えば、共感、助けようとする姿勢、利己的でない姿勢、思いやり)と意志(その中でも、自主性、自己コントロール、持続力、課題意識、ルール意識)の発達を助け、習慣やモラル感の基礎を育てる保育園生活を作り上げることが望まれます。
- 3、 子どもの感性はオープンですから、保育園は、子どもたちが自然や人間環境にある長所や美しさ感叹し、尊重し、敬意を示すことを助けます。自分の国への愛着の基となる、より狭いより広い環境を知ることができるようにします。
- 4、 保育士と保育園で働く職員のコミュニケーションや態度、そして、振る舞いは、子どもたちのふるまい形成にモデル的価値をもちます。
- 5、 社会化が難しい、発達がゆっくり、発達度の低い、感覚器官や知的、もしくは、運動機能に障害がある、養護に欠ける、もしくは、特別な能力を持った子どもたちは、特別な教育や独自の関わりを必要とし、必要であればふさわしい専門家(心理学者、言語聴覚士、運動治療士、コンダクター、など)と協働します。

### 母国語・知的発達、そして、教育のために

- 1、 母国語教育の課題は、全ての活動のなかに含まれています。母国語の発達とコミュニケーションの様々な形態(会話のある環境、正しい見本、そして、訂正を避けながら会話のルールを伝えること)を身につけさせることは、保育園における教育活動の中でも特に大切な役割を持っています。母国語を知り、尊重し、好きになるための教育のなかで、子どもたちは自然な会話やコミュニケーションをとりたい気持ちを保ち、子どもの言葉へ耳を傾けることを促し、子どもが質問しようと思える状況を作り、そして、それに対する返事を求めることに適切な配慮をします。
- 2、 保育園は、子どもの関心や好奇心という年齢の独自性、すでに持っている体験、経験、認識を元に子どもに変化ある活動を保障し、それらを通して子どもが身のまわりの自然や社会環境について経験できるようにします。

- 3、知的発達その他の課題は、一つは、子どもたちが自発的に得た体験、認識を整理し、広げ、様々な経験や生活のなかで行使することであり、もう一つは、知的能力(感覚、知覚、記憶、注目、想像、思考)と創造力発達させることにあります。

## 4. 保育園生活を組織するための原則

### 1) 人的条件

- 1、保育園教育のカギを握っているのは保育士です。保育士の存在は、保育時間全てにおいて保育園教育の大切な条件です。保育士は受容的で援助しようとする姿勢のモデル、見本です。
- 2、保育士の教育活動と、保育園が機能しより良い教育がおこなわれるために、教育者ではない職員も協働して仕事をしなければなりません。
- 3、何らかの民族、または少数民族に所属する子どもたち、または、移民の子ども達を教育する保育園の保育士の課題は、民族保育園教育の教育目的を遂行することです。

### 2) 物的条件

保育園は、自園の保育プログラムを行うための物的条件が整っていなければいけません。保育園の建物・家具・遊具・道具、庭は、子どもたちの安全を守り、快適で、身体の大きさに合い、健康を守り、発達させます。運動と遊びの要求を満たすことができ、子どもたちをハーモニーある色彩と形、素材で囲みます。子どもたちの使うものは、子どもたちの手の届く場所に、そして、安全であるように配置します。と同時に、保育園環境が保育士にとってもふさわしい労働環境であり、保護者を受け入れるのにふさわしいものとしします。

#### 2) - 1 保育園生活の組織

- 1、日課と週案により子どもの健全な発達にふさわしい活動時間の計画を行い、同時進行で行える個々に合わせた活動の計画と組織を保証します。日課を考える時は、様々なプログラムや子ども個々の欲求、そして、その土地ならではの習慣や要望も考慮します。良い日課は流れており、融通がききます。遊びの持つ特別な役割を重視しながら活動間の調和あるバランスをとることは大切です。日課と週の流れはクラスの保育士が作ります。
- 2、保育園での生活を作り上げるにあたり、育児には特に大切な役割があります。保育士は、育児を助ける他の職員と共に、育児のなかで教育し、子どもとの関係を作り、同時に、自立を助けます。
- 3、保育園教育の計画は、子どもたちを知り、保育士の作り上げる様々な(必須、もしくは、必須ではない)記録、ドキュメント作りにも役立ちます。許可を得た園の教育プログラムの元でのみ保育園

教育は行うことができます。子どもの教育に必要な保育園生活は、プログラムにふさわしい活動の範囲で行うことができます。保育園の開園時間において子どもたちと行われる課業は全て保育士が行います。

## 関係づくり

- 1、 保育園教育は、家庭での教育と共に、そして、家庭での教育を補いながら子どもの発達を助けます。そのための基本条件が、家族との協働です。個別の関わりから様々なプログラムまで、保育園と家庭で協働する多様な場を設けることができます。保育園は家族の状況や習慣を考慮し、協働することにより関係を作り、家族に援助や助言を試みます。
- 2、 保育園は、保育園入学前(乳児保育園やその他の施設)、保育園滞在中(教育指導専門機関、養護施設、児童保護機関、健康・公共教育機関)、保育園卒園後(小学校)に、子どもの生活の中でも重要な役割を持つ機関と関係を作ります。関係づくりの形や方法は、課題や必要度に合わせて選びます。関係づくりと維持に関して、保育園はオープンでイニシアチブを持つようにします。
- 3、 民族、少数民族に所属する保育園は、関係のある少数民族機関、少数民族議会と関係をつくります。

## 5、 保育園での活動の形と保育園における教育的課題

### あそび

- 1、 遊びは、子どもにとって最も大切で、もっとも発達を促す活動で、そのことにより保育園教育において最も影響力のある活動です。遊び(自由な想像と共に行われる自由遊び)は子どもの基本的な心理的な要求なので、毎日繰り返す、長いこと、そして、できるだけ邪魔されずに保証される必要があります。子どもたちは、外界と自身の内面の世界から生まれる混沌とした印象を遊びの中で整理します。こうすることで遊びは、特別な意味をもった、知り、想像を発達させ、強め、体験を提供する活動となります。
- 2、 子どもたちの一番最初の遊び仲間は、保育園においても、家庭においても大人(親や保育士)です。遊びの中で模倣できるモデルとなり、後に、遊びの流れができてくると一緒に遊べる相手になり、もし、遊びが止まるような時は助けたり、働きかけたりします。
- 3、 遊びにふさわしい場所と、シンプルで、構成し直せ、子どものファンタジーを膨らませることを助ける素材や遊具が必要です。保育士の課題は、様々な遊び、例えば、練習遊びやシンボリック役割遊び、積木、構成遊び、工作、ルール遊び、劇遊び、人形劇あそびのために、クラスの良い雰囲気と、場所、時間、道具と経験を保障することです。

- 4、遊びの場に保育士が意識的に存在することにより、責任を持って間接的に遊びを方向付けることとなります。保育園において自由遊びに重点が置かれることが大切です。
- 5、遊びが特別であることは、保育園の日課や時間のバランスの中でも示されなければなりません。

### 詩・お話

- 1、何らかの動きを伴うことの多いトナエ歌や詩は、情緒的な安心感の提供と母国語教育において大切な役割を持っています。リズムと動き、言葉が一体となり、感覚的、情緒的な体験を子どもに提供します。
- 2、ハンガリーの児童詩、伝承はとてもゆたかで、日々の多くの場面で活用することができます。お話は、子どもの感覚—情緒—美的感覚の発達により働きかけるものです。お話は(像や具体的な形で)子どもたちに外界と人間の内的世界の主な情緒的な関係や可能性、ふさわしい振る舞いの形を伝えてくれます。
- 3、お話は、保育園児の考え方や世界観にふさわしいです。子どもの緊張を整理し、それと同時に解消し、解決方法を提供します。物体にも命を吹き込む世界観と、そこに備わる本来の因果関係を崩してしまう魔術的な世界観は、驚きや変身で深層の心理的現実感や外界を知ろうとする努力を奪うのではなく、逆に、それらに対する関心を引き起こします。
- 4、お話をしてくれる人との個人的なコンタクトは、子どもたちに大きな安心感を与えます。また、お話を聞くことで生まれる親密な関係が、活発な内的な世界を生み出す点は遊びと似ています。内的な像を作るこの過程は、子どもが経験を消化する中でも最も大切な形です。
- 5、子どもたちが自分の詩やお話を作り、それらに動きや絵を添えることも自己表現の一つの方法です。
- 6、子どもの精神衛生の視点からも、毎日お話や唱え、詩は欠かすことはできません。
- 7、保育園では民族的、伝統的、そして、近代的な文学作品の両方を取り上げることができます。

### うた、音楽、わらべ歌

- 1、保育園環境にある音への注目は、歌や音楽に対しての関心を引き起こし、膝に抱いての遊び、わらべ歌遊びは音楽の喜びを提供し、同時に、音楽的関心を引き起こし、音楽的感覚を形成し、美的感覚を育てます。一緒に歌うこと、音楽活動を楽しむことで、子どもたちは旋律やリズム、動きの美しさや、一緒に歌う楽しさを経験します。民謡を歌うことや子どもたちが民族舞踊を踊り、伝承遊びで遊ぶことは、伝承を知り、伝えることを助けます。保育園における歌—音楽教育の課題が効果的であることは、音楽的母国語の基礎を作り、形成を助けます。
- 2、わらべ歌とよく選択された最近の作品は、子どもたちの音楽能力(リズム感、歌うこと、聴覚、動き)と音楽的創造性の形成するための重要な道具です。
- 3、保育士は、少数民族や多民族の教育においては音楽鑑賞の素材を選ぶなかで、彼らの所属に配慮します。

- 4、大人のモデルを模倣しながら歌い、音楽にふれることで、子どもにとってこれらが日常的なものとなります。

### 描画、手仕事

- 1、書くこと、色を塗ること、模様をつけること、構成すること、さまざまな手仕事やさまざまな作品と出会うことも、子どもの人格的な発達には大切な要素です。子どもの創作は内的像の豊かさが元になります。
- 2、描画的な活動のできる場を、保育士は一日の中で常に保証します。制作行為の喜び、表現したいと思う欲求が育つこと、自己表現、環境を美しくしようと思うこと、そして、美的な体験を受け入れられることが大切です。
- 3、これらの活動は、子ども個々の発達や能力に合わせて、平面・立体的な表現能力、空間における空間知覚、空間配置力が形成され、子どもが経験やファンタジーの世界を豊かにし、そして、表現することを援助します。このことにより、子どもの空間、形、色の想像力を豊かにし、像的思考の発達、美的感覚や美しいものに対するオープンさ、美的欲求の形成に働きかけます。
- 4、保育士の課題は、さまざまな道具の使い方や素材で、描画や模様付け、手仕事の基本と技術を子どもたちに伝えることです。

### 運動

- 1、体操や運動遊びは子供の自然な動き(歩く、走る、飛ぶ、支える、ぶら下がる、バランスをとる、投げる)や力、器用さ、速さ、持続力などの身体能力、仲間への注目力を発達させます。
- 2、子どもの身体機能の成長や忍耐力、そして、一つ一つの機能の働く力に良い影響を与えます。
- 3、健康の維持と保護にも大切な役割を持っています。健康をも守り、健康的に生活することにも影響も与えます。運動の文化を発達させるとともに、空間における移動や状況把握、決定や適応能力、そして人格における意思の要素の形成も助けます。
- 4、体操や運動遊び、健康的な生活方法を強めるその他の活動、室内で、園庭で、道具を使って、道具なしで、自発的に、もしくは保育士の指導する形で、保育園教育において、毎日(個々の欲求や能力に配慮しながら)、全ての子どもに保証する必要があります。

### 外界の認識

- 1、子どもたちは活発さと好奇心によって、狭い、そして、広い自然—人間—物的環境の形や量、関係の経験を獲得します。現実の発見の過程で、自然や人間の創造した者に対して肯定的な情緒関係が形成されます。そして、それらを保護し、価値を守ることを学びます。



- 2、子どもたちは環境を発見していく過程で、環境や年齢にふさわしい説明の必要な情報や経験に出会います。生まれた国や、そこに生きる人々、風景、地域の民族伝承、民族伝統、習慣、家族と物的な文化の価値、そして、それらに対する愛着や保護の気持ちを学びます。
- 3、環境と知り合う中で、子どもたちは数的な経験や認識を得、それらを活用するようになります。量や形、大きさや空間関係などに出会うことで、形を認識する力や空間知覚、平面知覚、そして、量の感覚も形成されていきます。
- 4、保育士の課題は、子どもが環境を能動的に知ることができるように機会と時間、道具を保障し、自発的に、そして、組織的に経験と認識を獲得できるように環境を整えることと、安全に過ごすための習慣を形成することにあります。子どもたちが仲間との関係や環境作りにおいて、自分なりの意見をもつことを助け、決定する能力を発達させます。

### 仕事の活動

- 1、遊びと、行為を伴う学習とたくさんの共通点を持ち、同時に遊びでもある仕事や仕事の遊び（遊戯的な活動）は、人格の発達のための大切な手段です（保育士や他の大人の仕事を手伝う。自分でできることを行う：例、食事の準備、など。クラスの仲間と一緒に、もしくは、彼らのために、後には自立して、頼まれたことを行う。当番やその他の仕事を行う。環境をきれいにし、植物・動物の世話をする。）。
- 2、子どもの仕事の活動とは
  - ・ 自主的に（つまり喜びと共に）行う能動的な活動です。
  - ・ 経験獲得と環境を知る場であり、同時に、仕事を終えることに必要な能力、技能、性質（例えば持続力、能動性、責任感、目的意識）を形成する貴重な場です。
  - ・ 仲間関係の形成や義務の遂行を学ぶための道具であり、自身や仲間を知る教育の一つの形でもあります。
- 3、子どもの仕事には、保育士の意識的な準備と子どもとの協働、そして、常に具体的で、真実に基づき、子どもにとって発達の意味のある肯定的な評価を必要とします。

### 学習

行為しながらの学習は

- 1、保育園での学習は継続的で、その多くが模倣や自発的な活動で、人格の全面的な発達に働きかけます。それらは決して知識を得ることだけではありません。一日のなかで、自然や作られた環境、遠足、保育士により計画された課業をとおして、そして、時間の枠の中で行われます。
- 2、保育園における学習の第一の目的は、子どもたちの能力を発達させることにあります。保育士は、子ども達がすでに得ている経験や認識を元にして、学習に見合った環境を作り出します。

- 3、学習の条件は、子どもが能動的に行い、直接的で、たくさんの感覚器官を使って経験でき、発見の可能性をもち、創造力を強められることです。
- 4、保育園でありえる学習の形は
  - 模倣する。見本となるモデルを真似して態度を身につける。振る舞いを学ぶ(習慣形成)。
  - 自主的で遊戯的な経験獲得。
  - 行為をしながらの学習。
  - 子どもの質問や回答から出発した認識獲得。
  - 保育士の導きによる観察や経験獲得、発見。
  - 実際的な問題解決。

## 6、卒園時に特徴的な発達の特徴

- 1、家庭での教育と幼児保育園での教育の成果として、子どもの多くは幼児保育園を卒園する頃(6-7歳)には小学校での生活に必要な成熟レベルに至ります。幼児保育園から小学校にゆくりと移行する過程に入ります。入学猶予制度は、年齢を考慮するとともに発達に合わせての入学を可能とします。
- 2、小学校での生活を始めるためには、以下のような事柄と共に、身体面、精神面、社会面での成熟が必要で、学校での生活が順調に行われるためには、これらが全て同じように大切です。
  - A) 身体的に健康に成長している子どもは、6歳頃に最初の体型の変化を迎えます。身体部位のバランスが変わり、歯が抜け替わり始めます。身体は全体的に平均して成長し、負担への持久力(ある程度の時間座ってられる筋力、ある程度の時間同じ行為を続けられる力)もつき始めます。動きはよりスムーズとなり調和のとれたものとなり、微細運動はより発達します。動き、振る舞い、身体的な欲求を意識的に調節できるようになってきます。
  - B) 精神的にも成長している子どもは、保育園時代の終わりには、小学校入学に対して好奇心をもつようになります。学習に必要な能力は次第に伸び、感覚・知覚器官はより分化されたものとなります。(特に空間知覚が発達し、視覚・聴覚が分化れ、空間把握力が育ち、身体像が形成されることに大きな意味があります。)  
精神面が健康的に成長している子どもは
    - ・ 無意識な記憶と記憶の想起、直接的な発見だけでなく、意識的な記憶と想起、そして、記憶保持の時間も長くなります。
    - ・ 学習の基本となる、意識的な注目が見られるようになり、注目の時間は延び、注目の範囲も広がっていきます。分散された注目(一度にいくつかのことに注目すること)と注目の推移(注目を他に移すこと)がより可能となります。
    - ・ 行為・観察しながら、見ながらの像的思考と同時に、抽象的な思考が形成され始めます。

### 健康的に発達している子どもは

- ・ 相手が理解できるように、よどみなくコミュニケーションをとること、話すことができます。
  - ✓ 考えていることや感じていることを相手に分かる形で、年齢にふさわしいテンポや強弱を使って表現することができます。
  - ✓ 全ての品詞を使い、様々な構造の文体を作れます。
  - ✓ 母音と子音を正確に発音します(歯の生え換わりによる個人差はあり得ます)。
  - ✓ 相手の話を最後まで聞き、理解できます。
- ・ 自分自身や環境についての基本的なことを理解しています。
  - ✓ 名前、住所、保護者の職業を知っています。
  - ✓ 歩行時の交通ルールを知り、実生活のなかでも適応できます。
  - ✓ 身近な環境、身近な植物、動物を知っており、それらの世話や保護についても理解しています。
  - ✓ 振る舞いの基本的なルールを理解しています。
  - ✓ 自然や社会環境を尊重し、守るために必要な振る舞いや習慣が身につき始めています。
  - ✓ 基本的な量の概念を身につけています。

- C) 保育園時代の最後に、子どもは小学校に向けて社会性も発達しています。社会性の成熟している子どもは、もし小学校の雰囲気がそれに見合ったものであるならば、小学校生活や教師を受け入れられ、段階的に形成されつつある協働も見られるようになり、大人や仲間とも関係を結べるようになります。

### 社会性の成熟している子どもは

- ・ より多くのルールに適応できます。つまり、自分の欲求を満たすタイミングを遅らせることができようになります。
- ・ 課題意識が形成されつつあり、それは課題の理解や課題の維持、課題をよりよく遂行するようになる点で見られることができます。持続力や作業のテンポ、自主性、自己抑制の形成がこれらを可能とします。

- 3、5歳から全ての子どもは幼児保育園に通います。5歳からの保育園教育の目的や課題は、子ども的人格全面の調和のとれた発達を助けることです。
- 4、独自の働きかけの必要な子どもの場合、継続的に専門家の助けを得ながらの教育的な働きかけをした時に限り、上記のような発達レベルに到達することが可能となります。
- 5、特別な関わりの必要な子どもの場合、受け入れ先の教育機関が子どもに対して求めることが、就学に必要な成熟度となります。